

愛恵だより

第 9 号

2022年1月20日 発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

施設見学・講座・講習の必要性



公益財団法人 愛恵福祉支援財団
評議員 新 田 和 子

愛恵の定款には、目的として、「この法人はキリスト教精神に基づき、すべての人々の健康で文化的な生活を維持できるように、相互の助け合いによって、豊かな福祉社会の建設に寄与することを目的とする。」とあり、その目的を達成するための事業を6項目あげています。その一つが、社会福祉の担い手の育成です。そのために、海外研修や国内研修を行っています。今回は、ここ数年間の国内研修としての施設見学、講座・講習について取り上げたいと思います。

社会福祉の仕事は、命・暮らしを守る仕事です。職業倫理を守り、一人ひとりを尊重して支援するためには、職員が、専門職業人としての自己確立できることが必要です。そのためには、研修は欠くことができません。しかし、日々の忙しさの中では、研修の機会がなかなか持てません。とりわけ、小規模な新しい事業所では、研修機会が持てないことがあります。愛恵の見学や講座。講習を受けられた方々からのアンケートから、改めて、見学、講座・講習の持つ意味を感じています。

愛恵の講座講習企画委員会では、毎年、高齢者、障がい者、児童などの領域について、先駆的な働きをしている施設の見学案を持ち寄り検討、下見を経て、見学会を行ってきました。

大勢で見学するのは難しいところですが、10名から15名くらいで、受け入れていただき、見学、説明、意見交換をいたします。施設理念・設備を見学、その後意見交換をいたします。見学先施設や、見学者同志との

今後の交流のきっかけになることも期待できます。

これまで、高齢者施設では、できるだけ個々人の今までの生活を尊重できるように、一斉の食事ではなく、時間に幅を持たせる工夫のある所や、寝かせきり、機械浴、おむつにしないなど普通の生活ができるようにと、職員態勢の工夫・研修、個浴のできるお風呂への改修をしている施設、地域での生活から看取りまでの支援体制を作っている施設などなど、施設の方針を伺い、また、実際の生活場面を見学、利用者の方々の表情・生活の様子、職員の働き方もすべてが、気づきと学びの場となります。また、自立型のグループリビングの場も見学し、多様なあり方を学ぶことができました。

また、障がい者の方々の就労やグループホームなどの生活の場の見学も、発達障がいについて専門的な方法を取り入れている施設を中心に見学を行い、実際の支援について学ぶことができました。

児童福祉施設では、見学者の方々に児童委員の方々が多く参加され、児童への支援について学ぶことができました。

施設見学では、見学に終わらず、後で、より詳しくお尋ねして、自身の施設の参考にされる方もあります。また、見学者同志の交流からより深い交流が生まれることもありました。

見学の良さは、身をもって知ることができる、施設の構造から、組織運営、職員の在り方、利用者の方々の満足度も、肌で感じるができるので、ご自身の場で、いかに活かせるかを考えることができるところにあります。

お忙しい中を、見学をお引き受け下さり、貴重な学びの機会を与えてくださった施設の皆様に心から感謝申し上げます。

次に、福祉専門職向けの講座、講習も、専門職として知識を得ると同時に、自らの成長つながるよい機会となります。
(次ページに続く)

特に発達障がいについては、しっかりとした学びをする機会が少ないので、2013年～2015年にかけて、ライフステージ（幼児期～学童期～成人期）に沿った支援について、（公財）東京YWCAとの共催で講座を行い、貴重な学びの機会を作ることができました。

その後の施設見学では、発達障がいの方々への専門的な支援を行っている施設を中心に見学し、こちらも参加者から高い評価を得ています。

また、公開講座としては、2017年度には、自宅ホスピス医の川越厚氏から「穏やかな死を迎えるために」と題して一死をどのようにとらえ、受けとめたらよいか、一死をみとるために家族に必要なこととの連続講座を、2018年度は、ルーテル学院大学名誉教授の西原雄次郎氏から「障がいのある方もない方も共に生きる社会を目指して」、2018年度は、「日野原重明先生は死をどう生きたか」～納得死を実現する～と題して、川越厚

氏からの講座を行い、一般の方も専門職の方も参加され、終末期をいかに生きるかについての考える機会となりました。

これら公開講座は、愛恵で長年続けている手話通訳養成講座の先生方が手話通訳をしてくださっています。

更に、読むことの困難なかたへの支援を目的に、音訳講座、音声デイジー制作講習会、マルチメディアデイジー制作講習会を（公財）東京YWCAとともに行っていきます。視覚障がいのみならず、LD、日本語を母語としない方など、多くの方々から絵本や、テキスト、などについてのマルチメディアデイジーの本の作成が期待されています。

昨年度から、コロナ禍で、見学も講座、講習もできていません。来年度は、ぜひ見学も講座。講習もできることを願っています。

緊急学生支援応募から聞こえる学生の声

財団では、2021年7月と8月の二回に分けて、社会福祉などを学んでいる、3、4年生で、コロナ危機の影響を受けて経済的に困窮している学生に対して緊急支援の募集を行い、9月に8大学39名と10月に8大学21名、合計60名、総額1800万円の支援をしました。

ある日の午後、この度の緊急支援の応募用紙を、個人情報保護に反しないように、財団の会議室で拝見しました。深刻な悩みが溢れていて、重たい時間でした。

このような緊急時には家族の支援が期待されますが、家族にも病気や失業の問題が生じており、かえって学生が家族を支援する必要に迫られ、家族から休学、退学を求められ、学業の継続が困難な状況が生じている事例がありました。大学卒業支援が求められていました。

もともと、学生たちはこれまでも大学生活は日本学生支援機構の奨学金とアルバイトで学業を進めていましたから、飲食業のみならず学習塾も経営難ですから必要な

収入が得られず、学業だけでなく生活そのものが困難な事例がそこそこ見られました。

授業料、家賃などの生活費を含めて、学業に必要な費用は高額です。さらに卒業を前にして、国家資格試験取得（社会福祉士、精神保健士など）のためには、研修・講習が必要で高額の費用の負担が求められますが不可能となり、受験出来ないか、資格を一つ諦める事例もありました。

コロナで学校が閉鎖され自主学習が叶わず、図書館の利用も出来ない状況のもたらす影響も甚大だと思いました。在宅学習には、Wi-Fiなどの通信機器の使用料が発生し、これも困窮した学生を苦しめています。

これでは、福祉の次世代を担う人材が失われることになりかねないと思いました。

コロナがもたらした社会状況は、もともと経済的弱者をさらに追い込む、貧困の連鎖を生み出していると言えないでしょうか。

小さな財団の出来ることには限りがありますが、率先して祈りをもって支えるという姿勢が求められていると思いました。

愛恵福祉支援財団

理事 昆 百合子



愛恵財団の特別助成金を受けて 再構築されたカンボジアソーシャルワーク



カンボジア専門職ソーシャルワーカー協会会長
サンバス・ソウルン (Sambath Soeurng)
2021年12月24日

カンボジア専門職ソーシャルワーカー協会 (APSWC) 会長のサンバスです。愛恵福祉支援財団 (Aikei) の国際協力の支援を受け、ここに活動を紹介できることは、私のチームにとって大きな喜びです。2021年会計年度が過ぎようとしている今、この機会に、この1年の笑顔とチャレンジを振り返ってみたいと思います。

2020年から2021年、コロナ (Covid-19) によりカンボジアは大きな打撃を受けました。100%ボランティアによるAPSWCも大きな影響を受け、資源が不足している中、ほとんど何もできませんでした。幸いなことに、愛恵からの助成支援を受けたことで、ソーシャルワークがカンボジアで確固たる実践基準と行動規範を備え、認知された専門職組織になるというビジョンを達成するために、回復とステップアップを始めることができました。最初のオフィスが設立され、すぐにAPSWCの一般的な運営を調整するために2人のフルタイムのスタッフを採用しました。慌ただしい状況でしたが、より強固な基盤ができたことで、私たちは安心して前に進むことができました。地域のソーシャルワーカーを巻き込むことは、私たちにとって大きな戦略です。コロナによって断ち切られた関係を再構築するために、地域のソーシャルワーカーを集めたイベントを開催しました。また、地域のソーシャルワーカーがAPSWCに参加するための基準や認定資格を定めた会員ガイドラインを作成しました。さらに、地域の3つの大学の社会福祉学部、政府やNGOのパートナーなど、いくつかの重要な連携・協力組織と会って、アイデアを交換したり、パートナーシップの機会について話し合ったりしました。また、100人以上の人々を対象に、ソーシャル

インクルージョン推進におけるソーシャルワーカーの役割についてプレゼンテーションを行いました。

もう一つの目的は、地域のソーシャルワーカーの能力を向上させ、ソーシャルサービスの質を高めることです。ソーシャルワーカーを対象としたニーズ調査を実施した結果、ソーシャルサービス提供者の能力不足を把握することができました。この情報をもとに、そのギャップを埋めるための連続セミナーの計画を立てています。つい先日(11月)、29名のソーシャルワーカーを対象に、「ソーシャルワーク専門職入門」のバーチャルセミナーを実施しました。彼らの大半は大学では別分野を専攻し、ソーシャルワークの教育を受けたことがないため、セミナーでは興味深い情報や知識を提供できたと思います。次は、ソーシャルワークの主要なコンピテンシー(対応力や技術)に関するより包括的なセミナーを提供する予定です。

その一方で、社会福祉や社会サービスの労働力に関連する国家政策の策定プロセスにも積極的に貢献しています。私たちは、技術的なサポートやコンサルテーションを政府の社会福祉部門に提供し続けています。それらは、カンボジアにおける社会サービス従事者(SSW)の行動規範、「SSWの育成に関する国家戦略計画」、などの国家文書に対する、技術支援やコンサルティングです。私たちは道を切り開いていきます。先は長く、道は険しいことを知っています。しかし、私たちはあきらめません。また、皆様のご支援は、私たちにとって大きなモチベーションとなり、力ともなっています。こころより感謝申し上げます。ありがとうございました。



APSWCが2021年7月にバーチャルで開催した会員募集のポスター

社会福祉育成活動推進支援事業

助成金給付事業

社会福祉法人及びNPO法人、任意団体等が実施している事業のうち、比較的小規模な施設、または障がい者支援等に財政的な裏付けの少ない先駆的な試みや開拓的な事業活動に対して助成を行います。

2021年度の助成事業（限度額20万円/件）は、応募いただいた中から計88件、1,468万円余の資金助成をすることが出来ました。

作業台が新品のステンレス製に

NPOコミュニティ益田(島根)

鉄製の腐食した作業台から新品のステンレス製のものになりました。

これまで掃除の際や行き交う際に腐食した箇所でご迷惑をしないかと心配でした。

コンビニ仕様の狭い場所で50食の弁当を作り販売しています。

利用者さんに喜んでいただける工賃の向上を約束します。



電気柵器を果樹園周辺に設置

社会福祉法人 幸生会 いまりの里(佐賀)

電気柵器を果樹園周辺に設置し、害獣(イノシシ)の侵入を防止することが出来ました。

例年害獣の被害が頻繁に生じ、農作物の被害対策に苦慮していましたが、設置のおかげで被害を未然に防止できました。果樹園、農園の発展に役立てたいと思います。



空気清浄機で安心

一般社団法人 シャロームいしのまき(宮城)

コロナウイルス・オミクロン株の猛威は石巻地区にも罹患者を増やしております。

例年にない寒波が押し寄せて換気のできにくい中、助成いただいた空気清浄機は毎日フル稼働で使用しています。おかげさまで心配なく快適な作業

を続けられております。シュレッダーは機密文書、計算書類等の処理に毎日使用しています。

助成金申請にたいしご理解いただき本当にありがとうございます。



急速冷凍庫で喜び

ばあばら(東京都)

食料品などの支援物資が増えていますが冷凍庫がなかったので、使用日や配布日までの保管が大変で、イレギュラーに自転車を飛ばしたり、泣く泣く辞退したり残念なこともありました。助成を決定していただき急速冷凍庫を購入することができシングル子育て家族には手早く食卓に出せるフードバンクからの冷凍食品などが配布でき、喜ばれています。



愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711

